ティーチング・ポートフォリオ（教育業績ファイル）

教員氏名	西海　幹樹

主な担当科目	インターンシップ①,公演演習基礎Ⅰ,公演演習基礎Ⅱ,公演実習Ⅰ,公演実習Ⅱ,公演実習Ⅲ,公演実習Ⅳ,卒業制作作品研究,電気工事士技能演習,舞台スタッフ概論,舞台スタッフ論①,舞台スタッフ論②,舞台芸術演習基礎Ⅰ,舞台芸術演習基礎Ⅱ,舞台芸術実習①,舞台芸術実習②,舞台芸術実習③,舞台照明演習,舞台情報処理,舞台制作概論

2025年の教育目標・授業に臨む姿勢	舞台スタッフにおける実践的な人材育成を行う。昨年度から継続 1.安全教育の徹底と研究 2.業界が必要とする素養と資格等の研究、人材育成 3.最新技術を取り入れた実践的な照明技術の研究、人材育成
2025年の教育に関する自己評価	安全教育については事前指導の徹底を行い安全面に配慮できたが、スタッフのみでは安全な環境を保つことが困難であり、演出家、演出助手、歌唱・ダンス指導等の現場における指導者の理解や緻密な協力が必要であり、今後も継続して安全配慮を行いFD研修会等でも取り上げていきたい。人材育成については舞台業界のヒアリングなどを行い、有効な資格の選定などができた。照明技術については日本照明家協会、全国舞台テレビ照明事業協同組合の活動を通して研究ができた。

2025年のFD活動に関する自己評価	学内のFDに積極的に参加した。特に舞台スタッフ分科会のFDでは学生のトラブルや多様性など情報共有を行い、教員全体で指導方法などを検討した。舞台スタッフコースでは稽古参加や図面作業など、通常の授業時間以外の作業が多く、日常生活に密接しており、個別の案件を相談されることも多く、早めにトラブルを回避したり退学等の防止になるので、今後も積極的にFDに参加し、主に学生のケア方法や情報共有については重点的に実施したい。
授業改善のために取り入れた研修内容	特に舞台スタッフ分科会のFDでは学生の個別案件が多く、教員間でも違う判断になる場合もあり、状況共有と指導方針を定期的に確認、協議することは重要であり、今後もFD等で重点的に行いたい。またFD以外にも日ごろの問題や検討議案がある場合は各セクションによる連絡会議も実施し学生のケアができるように引き続き研修を行いたい。特にTeams等を使用することで非常勤教員の参加率が高く、意見交換も活発になるので今後も実施したい。

2025 年度（秋学期）「学生による授業アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：2068　教員名：西海　幹樹

インターンシップ①②

1）アンケート結果に対する所見

実際の現場を体験する授業であり、選択科目であるため目的意識を持った学生が履修するので満足が高いと推測する。

2）要望への対応・改善方策　特になし

3）今後の課題

受け入れ先のコンプライアンスや受入れ許可が年々難しくなっており、企業によっては独自に実施している就職インターンシップを勧められる場合もあり、今後授業運用を検討していきたい。

卒業制作作品研究

1）アンケート結果に対する所見

卒業論文は各自の研究成果であり、大きな問題はないと思われるが、一方研究意識の低い学生が定期的に研究活動をしないことで時間がないなどの意見がある。

2）要望への対応・改善方策　特になし

3）今後の課題

新カリキュラムでは公演との選択とし将来の目的によって選択できるように運用予定である。

舞台芸術実習②照明

1）アンケート結果に対する所見

舞台照明についての専門性を高めた科目であり、実践が中心なため満足度が高いと推測する。

2）要望への対応・改善方策　特になし

3）今後の課題

各学年で必修科目等を取りこぼすと非常に忙しくなるため、1 年次より卒業までのスケジュールを把握させ指導していきたい。

舞台制作概論

1）アンケート結果に対する所見

舞台を創り上げるスタッフワークを解説しており、目的のある学生は評価が高いが、一方
授業の内容を理解していない者や参加意欲の乏しい者、留学生等日本語能力が低い者には
理解が難しいようである。

2）要望への対応・改善方策

それなりの時間を使用して説明し、レジュメ等の用意をしているが、授業で使用したパワーポイントのデータが欲しいと意見が一部あるが、著作、肖像権等の問題があり、そもそも書き留める努力が乏しいように感じる。可能な限りゆっくり説明できるようにする。

3）今後の課題

レジュメ等を使用して可能な限りメモ等しやすい環境を作っているが、それでも難しい場合は
対応が難しい。

公演実習Ⅰ

1）アンケート結果に対する所見

公演の体験のため満足度は高いようである。

2）要望への対応・改善方策

休みがないのは入学時から説明しているが通常の時間割と実習が連動するため、実習のみが 2 か月連続であるのではなく、授業と実習を合わせると 2 日間しか休みがないということであるので、そもそも実践的なスタッフワークを学ぶには必要であり、今後新カリキュラムでも大きな変更はない。

3）今後の課題

スタッフの人材育成をするには一定数必要な実習であり、学生間でも温度差を感じる。
入学時点でも再度スタッフワークの仕事内容を理解させ実習運用をしたい。

舞台芸術実習①

1）アンケート結果に対する所見

公演の基礎のため満足度は高いようである。

2）要望への対応・改善方策　特になし

3）今後の課題　特になし

舞台情報処理ABCD

1）アンケート結果に対する所見

満足度は高いようである

2）要望への対応・改善方策

記述にもスタッフワークとして必要な作業であることを理解しているようでる。

3）今後の課題

今後は希望者には3D まで指導できると良いが、スキルの差があるので今後ランク別のクラスを作るなど検討したい。

舞台芸術実習③照明

1）アンケート結果に対する所見

満足度は高いようである

2）要望への対応・改善方策　特になし

3）今後の課題

定期的な機材の入れ替えなど、現在の舞台業界に準じた施設・機材更新が重要である。

公演実習Ⅲ照明

1）アンケート結果に対する所見

満足度は高いようである

2）要望への対応・改善方策　特にない

3）今後の課題

定期的な機材の入れ替えなど、現在の舞台業界に準じた施設・機材更新が重要である。

公演実習Ⅳ

1）アンケート結果に対する所見

満足度は高いようである

2）要望への対応・改善方策　特にない

3）今後の課題

定期的な機材の入れ替えなど、現在の舞台業界に準じた施設・機材更新が重要である。

舞台芸術演習基礎Ⅱ

1）アンケート結果に対する所見

満足度は高いようである

2）要望への対応・改善方策　特になし

3）今後の課題

時代の変化に応じたスタッフワークを紹介できるよう更新していきたい。

公演演習基礎ⅠⅡ

1）アンケート結果に対する所見

満足度は高いようである

2）要望への対応・改善方策

計画性についてはリリエ等の使用制限（他コースの公演等で授業が実施できない）など
施設のスケジュール共有等ができていない場合があり今後はよりスケジューリング等に細心の注意をする。

3）今後の課題

新カリキュラムで創作作品数等は今後検討していきたい。

以　上